



2009・9・24

岡谷市長地片間町 2-5-5
TEL, FAX 0266-28-9230

ニュース No. 37

行事活動の報告

8月15日（終戦記念日）岡谷駅前街頭署名

今までに最高の24名が参加、諏訪湖花火大会に向かう人たちに「九条署名」「反核署名」とビラ配り。「核兵器廃絶」のチラシ450枚を配り終えた時点で終了した。署名数は「九条」145筆「反核」135筆

助っ人さんありがとう 伊藤フサ子 田中町 2-17

通りかかった高校生らしき3人組。「署名したよ」と言う。「花火に行くの？」と聞くと、「どうしようか迷ってる」という。ひまを持て余しているようだ。そのうちに気がつく、その3人組がそれぞれに、チラシを持って配っていた。ニコニコしながら。なかなか受け取ってくれない人が多いので苦勞していた。3人並んで通せんぼのようにしたり、バラバラに分かれてみたり、言葉をかけたりしてー。そのうち持っていたチラシを全部配り終えると、「ヤッタ」と満足そうな笑顔で去っていった。ありがとう！

9月9日（水）9999協賛「九条に乾杯」イベント

羽山晃正・弘子コンサートと歌声サロンの夕べ

用意した120席にあふれる盛況。乾杯まで感動の連続でした

迫力あるステージに感動 清水章男 長地源 2-3

ボーカルリーダーの林さんは、昔の合唱団の仲間だったので、歌声の合唱にスムーズに入れ、唱歌や反戦歌など皆と楽しく歌えました。羽山夫妻のコンサートは、今までステージから遠く離れて聞いていたオペラや歌曲を、こんなに間近で聴くのは、私の合唱人生にとっても初めてのことで、すばらしい迫力でした。なかでも「ウイーン我が夢の街」はこの1月ウイーン楽友会館大ホールで、県合唱連盟の一員として歌ってきたのでひとしお感慨深く、また武満徹の歌は関屋晋指揮で合唱曲として歌ったことがあり思いでにふけて聴いていました。戦争のない世にこそ歌があります。世界の平和を希求する貴会のご活躍を祈ります。

今後の予定

10月3日(土) 定例会 DVD鑑賞 諏訪湖ハイツ大会議室

13:30~15:30 「未決沖縄戦」12人の証言により沖縄戦を徹底検証する。民間人に集団自決という言葉はない。沖縄問題は未だ解決していない。「九条の会全国交流集会」から 鶴見俊輔、澤地久枝両氏の演説

11月14日(土) 定例会 DVD鑑賞 イルフプラザ

多目的ホール(三階) 13:30~15:30 「アフガンに命の水を」アフガンに真に必要なことは何か。今後のアフガン問題を考えるための手がかりとなる。中村哲率いるペシャワール会26年の戦いとその感動。

12月6日(日) ピースウオーク(諏訪九条の輪主催)

諏訪市湖畔公園 機関車前集合 11:00~12:00

1月11日(祝日) 九条風あげ大会(諏訪九条の輪主催)

岡谷市湖畔公園(マレットゴルフ場横) 13:30~14:00

~~~~~

- ◎ 10月~3月岡谷九条の会が「諏訪九条の輪」幹事団体になります。この間決まっていることはピースウオーク(12/6)と風揚げ大会(1/11)です。何か提案がありましたら、お願いします。「九条ポスター」制作中
- ◎ 近現代史集中学習講座DVD(4枚2,000円)10月末までに事務局へ

### アオギリによせて 宮澤 いく子 川岸東 4-18

孫達の話で、小井川小学校にアオギリがあると聞いて、かねて一度逢いたいと思っていた。平和の集いがあるということで出かけて行った。被爆2世のアオギリは思っていたより小さくて2メートルくらい、幹は緑色で滑らか、その葉は生き生きと8月の朝日の中で輝いていた。

原爆の落ちた広島街は一瞬のうちに灰燼と化した。「父を返せ、母を返せ、人間を返せ・・・」と峠三吉はその思いをはきだしたが、放射能の残る荒廢の地には、十数年は何も生えないだろうといわれた。ところが翌年、爆心地から1.5キロの地点でアオギリが芽を吹いた。これが人々を絶望から救った。大きな「いのち」の流れに感動し、希望をとりもどしたのである。

親木から分かれたこの2代目のアオギリは、見る人の心に「忘れないでほしい、核のない平和な世界を遺すことを。子ども達よ、大人達よ」と訴えているようである。

-- 校庭の梧桐(あをぎり)二世子ら守る --

-- 敗戦忌わだつみの声忘れまじ --

川岸の二木六徳・奈保ご夫妻は今年8月6日、広島市の平和記念式典に参加され、その感想とスケッチを寄せていただきました。広島市長の「平和宣言」とくに最後の英語の呼びかけに感動したとのことです。

We have the power. We have the responsibility. And we are the Obamajority. Together, we can abolish nuclear weapons. Yes, we can.

( 私たちには力があります。私たちに責任があります。そして私たちはオバマジョリティーです。力を合せれば核兵器は廃絶できます。絶対にできます。)

## 平和記念式典に参加して 二木 奈保 川岸上 2-13

去年8月6日、広島市の平和祈念式典の様子をテレビで見て、来年は是非さんかしたいねーという話になった。

今年の参加者は5万人と発表された。会場では体格の良い黒人や白人が目についたが、外見ではわからないアジアの人々を含めれば、外国からの参加者は、かなりの数になるだろう。

オバマ大統領が、核兵器を使った米国は、核廃絶のために努力する責任があると発言したが、それに応えて、秋葉広島市長は、力を合わせて2020年までに核兵器廃絶をしようと、世界へ向けて発信した。その思いは日本国憲法に凝縮されていることも。

最後に、Yes, we can.と英語で呼びかけた平和宣言が心強く感じられた。

8月5日の早朝、原爆資料館の前庭で。夫は自転車を停めた女の人に、シャッターを押しましようか、と声をかけられた。少し離れていた私が近づいてみると、黒い帽子、黒い手袋に、額も顎も黒い布で覆い、黒いサングラスをかけた異様な姿の人だった。

「数年前に70歳代で亡くなった父親が直接被爆している。その放射能の影響で発病した。治療に使った薬の副作用で全身の色素を失った。その結果、光を避けなければならない躰になってしまった。偉い人の出席する式典には参加したくないので、毎年、前日に慰霊に来ている。」

一方的にそれだけ話すと、勤めの時間を気にして、あわただしく立ち去った。不況で状況の厳しいことをつけ加えて。

いつ発病したのだろう。黒い眼鏡をかけて自転車に乗るのは危険ではないのか。奇異の目で見られないか。どんな日常生活か。國はそんなに大変な状況の人が働かなくてはならないような、わずかな保障しかしないのかなど、この人の事がずっと頭を離れないでいる。

公園の迸る水を掌(て)に受けて八月の死者を重く受けとむ  
明けやらぬ慰霊碑の前に跪き深く祈るは異国の僧か

09  
8.6  
2-40

この日、ドームの前の広場では、様々な催しや集会があった。

